

高尾山報

令和3年7月号

夏行げざよう

六根清浄ろっこんしやうじやうの

声響く



法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(109)

夏草は

茂りにけりな

たまげこの
道行き人も
結ぶばかりに

(「新古今集」藤原元真)
夏草が茂ってしまったな。道を行き交う人々が、草を結んで目印とするほどに)

夏の盛りを前にして、名も知れぬ夏草が生い茂っています。恵みの雨を受けて、日に日に勢いよく生長する姿に、力強い生命の逞しさを感じます。この「夏草」の歌では、道を行く人が伸びた草を結んでいます。それはどこかへと向かう旅人でしょうか。後からやって来る者への道しるべとして、草で結び目を作っていたのかも知れません。夏草に行き交う人々を思う、古の風景です。

ちなみに昔の子供たちの遊びの中には、あぜ道の草を結んで、誰かを引つけてつまづかせるといういたずらもあつたようです。今となつては懐かしい幼き日の思い出でしょう。

夏草は、そのまま伸ばし放題にするわけにもいきません。一年の農作業を表すことわざに「春耕し、夏草切り、秋刈り、冬納む」(譬喩尽)という言葉があるように、生活を営むに当たっては草刈りも欠かせないものです。とりわけ夏のお盆が近づいてくると、お墓まわりを掃き清め、墓地に通じる道の草もきれいに刈り取られます。

それぞと見ゆる
岫の雲
(水原秋桜子)

「盆路」(盆道)とは、お盆に帰ってくるご先祖様を思い、お墓から家までの草を刈って道を整えることです。精霊を迎えるために、旧暦七月一日(月遅れでは八月一日)に行われます。

この「盆路」の句では、深緑の険しい急斜面(岫)にかかる白雲を「盆路」に見立てています。日頃からご先祖様を敬う心が見せた一瞬の夏景色だったのでしようか。

盆路といえは、先日お檀家さんのご法事の際に、夏草が刈り取られた盆路を歩いていると、ところどころ小さな草花が咲いているのに気づきました。お話しを伺うと、可愛らしい花は、仏さまに捧げるために敢えて残しておいたとのこと。「花」の「秘密」(又略)ともいわれるように、ほんのわずかな供養であっても大なる功徳があるものです。このお檀家さんの心は、きつとご先祖様のも



夏の盛りに様々な植物が生い茂る

折り折りの記 (143)

五輪旗に乗る高尾山富士の山

波多野 重雄

高尾山は富士山へ指呼の間に迫る。戦国時代から国境に異変があつた場合でも、高尾山中に富士詣での参道の途が築かれて居た。

亦、明治の大改革の折、民間に払い下げの危機も無事、事なきを得て現在の高尾山薬王院の存続を得る。

この自然豊かな環境が守られて居るのは、先輩の叡知と努力の賜である。都市近郊で富士山と高尾山程恵まれているお山は、少ない。
(高尾山健康登山の会会長)

十八本山参籠(2)

夏参籠

総本山信貴山朝護孫子寺

毘沙門天感悟極

聖徳太子敬創建

物部一族撃退滅

日本仏教黎明焉

厚木市 荒井 一雄
尊太子
十回即答
夏来たり

夏、総本山信貴山
朝護孫子寺に参籠る

霊力極まりて毘沙門天王様を感得され、聖徳太子様は此処に

謹み敬ひて開山かざる...

慶仏物部氏一派を撃退し、

日本の仏教の夜明けを
命がけて成就なさるる...

僧が住むところに行きました。

五人は遙かに如来(悟りを開いた人)がやってくるのを見て、互いに語り合つて言いました。「沙門瞿曇(お釈迦様)は、苦行(断食を止めて飲食を受けるためにここに来られたのだらう)と、到着すると、皆は座から立ち上がり礼拝して迎えました。

お釈迦様は語りました。「そなたたちは浅はかな智恵をもつて、私の悟りを軽んじ疑つてはならない。苦行をやめたのは、心が揺ぎ乱されるからだ。かといつて快樂のみを求めれば、心は欲望に執着してしまふ。だから私は苦・楽の二つの道を離れて中道を行ったのだ。そうすること(菩提(迷いを離れること)を成し遂げられたのだ)。」

そしてお釈迦様は「苦・集・滅・道」(四諦)の教えを説き始めました。五人はこれを聞いて苦しみから解き放たれ、正しい眼を得られたのでした。

鏡に映し出された姿

お釈迦様は、肉体を痛めつけるだけの苦行でもなく、逆にどこまでも悦楽を追い求めるのでもない「苦楽中道」の境地を示しました。それは両極端に偏る心を戒め、あらゆる対立から離れてゆく実践法でもあつたのでしよう。

世の中は、鏡に映る影にあらざるなきにもあらず
(源実朝「金槐和歌集」)

総本山成田山新勝寺新貫首

岸田照泰貫首猊下御来臨

五月二十六日、真言宗智山派・大本山成田山新勝寺の御貫首に、新たに岸田照泰僧正が就任され、御挨拶のため高尾山麓の不動院に御来臨を賜りました。

岸田御貫首は、二〇一四年に成田山新勝寺の寺務長に就任され、先代の橋本御貫首を支えてこられました。また、地域での社会活動にも尽力されておられます。

不動院・清滝庵において、当山の佐藤御山主と和やかに歓談の一時を過ごされ、帰途に着かれました。



(栃木北部教区普濟寺)



山頂で歓喜を知る延年



柴燈大護摩共に諸願成就を祈る



罪を悔い改める懺悔



慈悲の心を知る相撲



自らの罪業を知る業秤

高尾山の大自然の中で修行を実践

第百十七回 信徒峰中修行会

六月五日、六日



険しい山道に行く徒歩練行

去る六月五日、六日の二日間に、第百十七回目となる、高尾山信徒峰中修行会が行われました。本年は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、通常は一泊二日の行程で行ってまいります修行会を、宿泊を伴わず、両日とも同様の修行内容で開催致しました。今回行われました修行は、六道の世界（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天道）を体験する「六凡行」です。

出立の山麓不動院においては、自らの罪の深さを知る「業秤」、険しい山道を練行する道中では、飢渴や労働の苦難を知る「水断」と「穀断」、有喜死において、他人を思いやる慈悲の心を知る「相撲」を行いました。

昼食の後、飯繩権現堂（御本社）において、自身の罪を悔い改める「懺悔」、山頂では苦しみの世界から歓喜の世界に辿り着いたことを、富士山に向かって感謝する「延年」の行を修しました。

下山後山麓において、佐藤山主大祇師のもと柴燈大護摩供が厳修され、御参加の皆様が無魔成満されました。



佐藤御山主と共に記念撮影

観音菩薩の宗教

④③

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

観音菩薩の転生者としての聖徳太子 (その6)

前号の最後に引用した寛文版『聖徳太子伝』(以下『太子伝』)の文章は、観音菩薩と聖徳太子の関係を本地垂迹の思想により説明したものであった。

その説の大前提は、「日本は観音菩薩に縁のある国であるため、すべての日本古来の神々の本地(本来の姿、本体)は観音菩薩であり、観音菩薩は我が国の仏法の大棟梁(筆頭の菩薩)として現れいらつしやる」として、各地の神々の本地が観音菩薩であることを挙げていた。文意は明快であるのでここでは繰り返さぬが、その主旨は、日本各地の著名な神社の

権現の本地が観音菩薩であるとすることである。そのみならず日本国内の山や谷などの自然も、多くが観音菩薩の垂迹であると述べている。すべてが観音菩薩の現れであるから、聖徳太子もまた観音菩薩の垂迹であるとす。これが『太子伝』の述べる、聖徳太子の本地を観音菩薩とする信仰の論理的説明である。

前号で見た通り、聖徳太子と観音菩薩の関係は飛鳥時代の太子薨去直後から語られ、その後広く信ぜられてきた。とはいえ、その間、観音菩薩と太子とのあいだをつなぐ系図的な転生者が具体的に明示されてきたわけではない。『太子伝』

の特色は、その間隙を天竺・震旦の人物として挙げたところにある。このことについて、『太子伝』は太子自身の口を通じて次のように述べている。以下の一節は、世界には天竺や震旦国、百济国、任那国、衡州国、蒙古国があることを挙げた上で語った言葉である。

「彼天竺・震旦のおほくの国々に、わが身、生々世々に、國王となり后とむまれて、様々男女の身を現じて、如来の教法をひろめ、衆生を利益し侍り。我、震旦の衡山、六生のぎるんつきて、いま片州日本国に來臨せり」(巻四、杉本校訂本一七九頁、「むまれ」と「ぎるん」のルビは筆者による)

震旦は前号に見たようにサンスクリット語のチーナスターナの音写で、インドから見た漢や隋・唐などを指した。チーナは秦の音がインドに入ったものとされる。漢民族は「華夷之別」における「華」と自己規定し、他



観音菩薩の垂迹とされる聖徳太子 絵：橋本豊治

民族は「夷」と蔑視する、日本で言うところの「中華思想」に辺倒と思われるがちである。しかし仏教に主眼を置いて自国を呼ぶ際は、インドから見た名称であるチーナを音写して「支那・脂那・至那」などと記した。日本でも長く用いられた「支那」は唐の渡天僧(インドに渡った僧侶)義浄が当てた文字である。そこには仏教の故郷を尊敬し、自国を謙虚に捉える意識が働いていると解釈できよう。また、チーナスター

での機縁が尽きて辺境の地である日本に誕生したという。このことを自ら語っているということは、太子は自分の前世を知っているということである。次に、『太子伝』の伝える太子の前世の諸人物を見ていこう。最初に出るのは天竺の人物である。それを伝える文章は、前号に見た聖徳太子は救世観音の垂迹とする文に続く一節に続いて現れる。これが『太子伝』の伝える観音菩薩のこの世における最初の転生である。以下、先ずその原文を引用する。

「我には、むかしの名字あり。仏子勝鬘夫人といはれて侍りし。孝養父母のくどくここにたへ、積迦如来にむまれあひ奉り、たちまちに女人五障のくるしみ、三従のさしはりを転じて、戒を持し、普光功德山王如来と、かたじけなくも、未来成仏の記前(きま)に預かりし。時に、我、未来世の無仏世界に仏法をひろめ、撰

受正法の大願をおこしをはんぬ。そのうち、生々世々、天竺・震旦、日域にむまれかはりて、仏法をひろめ衆生を利益せん時も、みなことごとく、勝鬘と名乗つて、衡山六生沙門の形にて侍りし昔も、沙門勝鬘と名乗。しかれば則、今吾朝の日本国にても又勝鬘とならむ」(前掲書一九四〜一九五頁)

ここで聖徳太子の口を通じて述べられていることは、太子が前世で仏教徒である勝鬘夫人といわれていたことである。勝鬘夫人は親孝行の徳があつたためにブツダと同じ時代に生まれることができた。当時、女性は五つの障害があるために仏や帝釈天になれないとされ、父や夫や子供に従わねばならないとされたが、よく戒律を守つたのでブツダによつて来世では普光功德山王如来という仏になれると予言された。普光功德山王如来とは観音菩薩が未来に成仏した

ときの名前である。また、記前とは記別とも書かれ、来世で仏になれるとするブツダの子言をいう。時に勝鬘夫人は仏のいない未来の世の中で仏法を弘め、正しい教えを受け入れて衆生を救う大きな願いをもつた。これにより、聖徳太子の前世である勝鬘夫人は代々、インドや震旦、日本に生まれ変わり衆生を救つたが、いつも勝鬘と名乗つていた。震旦の衡山で六回僧侶として生まれ変わった時も沙門勝鬘と名乗つていたし、日本でも勝鬘と名乗ろうと思う。

以上が太子が前世のことを思い起こして話した内容である。ここに現れる勝鬘夫人とは、大乘経典『勝鬘經』における主人公の女性を指す。「勝鬘經」は、誰でも仏になれる可能性があるとする如来蔵思想に基づき、女人成仏や在家主義を説いている。この教えをブツダに代わつて説くのが勝鬘夫人である。勝鬘

はサンスクリット語名をシュリーマラー(Śrīmā)といい、コーサラ国の都・シュラーヴァステイー(Srāvastī)舎衛(Prasenajit)波斯匿王(Prasenajit)の娘であつた。アヨディヤ王(Ayodhya)阿踰闍(Āyodhya)に嫁いだため、勝鬘夫人といわれる。聖徳太子は飛鳥時代、この経典に対する注釈書『勝鬘經義疏』を著したと伝えられている。「法華義疏」「維摩經義疏」と併せた『三經義疏』のうちの一書である。研究者により偽撰説があるにせよ、歴史上の聖徳太子が『勝鬘經義疏』を記したことは、太子の前世が勝鬘夫人であつたとする前生譚との因縁に符号する。また、漢訳仏教圏を中心として観音菩薩に女性的性格があることも(拙稿「観音菩薩の宗教」⑧)、最初の転生者が勝鬘夫人として転生する蓋然性を人々に感ぜしめるに充分である。

聖徳太子と勝鬘經の因縁譚も、最初の記事から後世にいたるにつれ、大幅に加上・脚色されていった。最も古い『日本書紀』では、以下のよう(聖徳太子が推古天皇十四年に『勝鬘經』の講説を行った事実を述べるのみであつた。「秋七月に天皇、皇太子を請きて、勝鬘經を講せしめたまふ。三日に説き竟りぬ。ここにいう天皇は推古天皇、皇太子は聖徳太子を指す。この記事は踏襲しつつ平安期の『聖徳太子傳曆』では、奇瑞譚が加わり、より劇的な内容となる。それによれば、太子が『勝鬘經』の講義を終えた夜に空から蓮華が降つてきた。翌朝、天皇が見に行くと蓮華が積もつており、その地に橋寺を建立したという。『太子伝』に見るごとき、太子の前世が観音菩薩から最初に勝鬘夫人に転生したとする思想は、『日本書紀』以来、長い時間をかけて準備されてきたこととなる。



「経政」を舞う山中近晶さん



能楽に合わせて声明をお唱える

伝承のたまではこく多摩伝統文化フェスティバル2021 楽劇高尾山〜平家美少年哀切譚〜

五月二十九日(土)

さる五月二十九日、三十日に多摩地域の文化資源を活用し、伝統文化・芸能の魅力を発信する、「伝承のたまではこく多摩伝統文化フェスティバル2021」が、無観客・オンライン配信で開催されました。その催しの一つとして五月二十九日に、「楽劇高尾山〜平家美少年哀切譚〜」が行われました。この演目は能の「経政」を能楽師の山中近晶さんが舞い、源平合戦で命を落とした若武者・平経政を中う場面で、佐藤御山主を始めとした、高尾山の僧侶による声明（お経に節をつけて歌う）を加えた舞台となりました。その他にも、八王子車人形や八王子芸妓衆による舞、多摩各地のお囃子等の舞台や、染め物等の紹介がありました。

御信徒を守護する寺宝を護る 刀櫃を御奉納頂く

六月十一日、八王子市内を中心とした刀剣愛好家の皆様で構成される、「刀櫃奉納有志の会」により、このたび寺宝の刀剣を保管するための「刀櫃」を御奉納頂きました。
この刀櫃には、昨年の高尾山報十二月号に掲載いたしました、当院の菅谷執事長より御奉納頂いた、八振りりの刀剣を保管致します。刀櫃を作製したのは、八王子市千代町在住の宮大工、森上秀男様です。
八振りりの刀剣には、いずれも不動明王や俱利伽羅龍王等の仏様や梵字が刻まれております。佐藤御山主は奉納式の挨拶の中で、「当山の御本尊・飯縄大権現様は人々の煩惱を断ち切る宝剣を携えている。この櫃は即ち、人々の心を守るための刀剣を守護するための櫃であり、大変有難い」と謝辞を述べられました。
刀櫃奉納有志の会の皆様方におかれましては、重ねて御礼申し上げます。



佐藤御山主と「刀櫃奉納有志の会」の皆様



刀剣が納められた刀櫃

天狗社祈願祭 修

六月二十一日

江戸消防記念会 第十區高尾山高聲會 木遣塚祭

六月二十日 於・飯縄権現堂下踊場



いろは

天狗の落し文

⑥



へこたれないで人生中場

出直してまた歩き出せ

一度決めた目標にずっと挑み続けるということは、想像以上に難しいことです。途中で方針転換したり、投げ出したくなることもあろうかと思います。

しかし、何かを成し遂げるためには、「一念岩をも通す」という言葉にもありますように、揺るがめ強い意志が必要です。

一度では上手くいかない、それでも簡単には諦めず、二度、三度、成功するまで挑戦してみる、そんな不屈の精神を持ちたいものです。

高尾山年代記

19

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

十世堯秀3 寺領朱印地の確定

高尾山に新しい鐘がもたらされた翌寛永九年（一六三二）の年明け、大御所秀忠が死去。三代将軍家光の親政が始まった。「知恵伊豆」と松平伊豆守信綱ら側近を登用し、将軍中心の新たな政治体制の構築に着手したのだった。

幕政の確立

土井利勝や酒井忠勝ら幕初以来の宿老と、新たに登用した側近との間で政務の分担を明確にし、とかく特定者に集中しがちだった権限を分散し、システムとしての政治体制が構築されていった。この動きは、将軍を中心に重職が脇を固めるといふ、老中・若年寄等、幕府職制の確

立へとつながってゆく。また、大名が周期的に江戸と国許を往来する参勤交代が武家諸法度に明文化され、幕府が対外貿易を掌握し日本人の海外渡航を禁ずる鎖国体制も完成を見るなど、その治世は江戸幕府政治体制の確立期と評価されている。

強固な鎖国体制の背景には寛永一四年（一六三七）に発生した鳥原の乱があった。キリスト教徒取締りのため寺院に身分の保証を委ねる動きは、全ての人々を特定の寺院の檀家とする寺檀制度へとつながってゆく。そして、全国に分布する寺院の行政支配の回路として単線的な本寺・末寺関係の整備が構想された。

寺領の領知朱印状

境内堂宇の再興とともに高尾山一〇世堯秀在任時のもう一つの重大事は、寺領を将軍から領知されたものとする朱印状の獲得であった。将軍の名で発給される文書には朱印が押されたことから、領知された土地は「朱印地」と呼ばれる。諸大名による場合は「黒印地」である。寺社には年貢の賦課対象から除くという意味の「除地」が認

められるケースは多かったが、将軍の領知による土地か否かでは意味合いが大きく違う。周辺の主だった寺社はすでに天正一四年（一五九二）の段階で家康から領地を安堵されていたが、高尾山が外れた理由としては、全山の焼亡を推測しておいた。寛永一四年には北麓の上長房村の村人による大規模な盗伐事件が発生し、それは薬師堂・飯縄宮の近くにまで及ぶものであった。江戸は都市建設の最中であり木材の需要はいくらでもあっただろう。薬王院としては、天正一四年四月付の竹木伐採を禁ずる大久保長安の書面を寺領の保証として解釈していたようだが、寺領を規定する明確な根拠を改め必要とする状況にもあつたと考えられる。

朱印地の確定

このような状況下、堯秀は朱印状の獲得に動く。形の上では、地元を管轄する代官岡上景親が薬王院の所持地を代官支配地から区別するので朱印地とする手続きを取るよう寺社奉行に上申するというものだったが、堯秀が

寛永期の後半には飢饉が相次ぎ、財政基盤である農村の秩序構築にも力が注がれた。後々までの基本方針となる郷村法令がこの時期に発出されている。正保元年（一六四四）には農村の生産力を全国的に把握するため「郷帳」の作成が諸大名・幕府代官に下令されており、これは徴税の基礎資料ともなり、諸大名・旗本の領地替えにおいても不可欠なデータであった。

められるケースは多かったが、将軍の領知による土地か否かでは意味合いが大きく違う。周辺の主だった寺社はすでに天正一四年（一五九二）の段階で家康から領地を安堵されていたが、高尾山が外れた理由としては、全山の焼亡を推測しておいた。寛永一四年には北麓の上長房村の村人による大規模な盗伐事件が発生し、それは薬師堂・飯縄宮の近くにまで及ぶものであった。江戸は都市建設の最中であり木材の需要はいくらでもあっただろう。薬王院としては、天正一四年四月付の竹木伐採を禁ずる大久保長安の書面を寺領の保証として解釈していたようだが、寺領を規定する明確な根拠を改め必要とする状況にもあつたと考えられる。

強い意向をもって岡上に朱印状交付の手續きを要請していたことは、岡上が堯秀に宛てた書状からわかる。書状には「御朱印のご訴訟について、その所の代官手形入れさうろう由、当住よりお断りにさうろう間、すなわち、朱印状を要請するには、所轄の代官から手形を提出する必要があると住職から申し出があつたので、

と記されている。岡上は先に高尾山中通り抜け禁止の覚書を薬王院に伝達した人物で、相応の面識を有する間柄だったようだ。ところで、認可される薬王院の寺領七五石は、土地からの収益見込みである「錢一五貫」を米の生産量に換算して定められたものだが、岡上の当初の上申書には「先規に

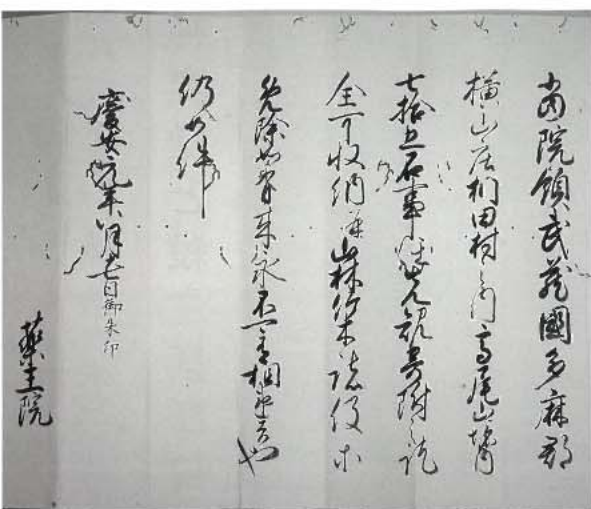
は山林を高十五貫に結び、地方十五貫、合せて三十貫北城（北条）家より任せ置かれ」と記されていた。実際、北条氏照の寄進状には三千疋（一錢三〇貫）という生産力が示されている。別に氏康の寄進状にも「所」とあるのだが、これについては、後世の史家も氏照の寄進状は氏康の寄進分を追認し、具体的な収量を記したものとする解釈がなされている。ところが、最終的に寺領の認可は北条氏寄進分の半分である「五貫相当に留まつた。それはどうしたことだろうか。書面には「御入国以来、地方は上り（収公）、山林は爾今持ち来り」ということから、この度は（半分の）山林分を朱印地に上申すると記している。

訪れた旨が記され、岡上は山林に所持の田畑も含め七五石とせねば持が明かない旨を述べている。当初の文言からすると、山林分以外にも収公された地方二五貫があるとし、堯秀は山林・耕地合わせて三〇貫、すなわち二五〇石の領知を志向していたようだ。しかし、根拠として三千疋寄進の記事もあつたのだが、結局、七五石の内に「山林・竹木・山中の田島とも」含まれるとして上申がなされ、慶安元年（一六四八）八月一七日に寺領七五石の朱印地が晴れて領知された。これは家康が関東に入国してから実に五八年もの歳月を経た後のことであつた。

なかつたこととなる。しかし、岡上とのやり取りから、朱印状獲得の手ごたえは感じられていたのではない。堂塔の復興と寺領・寺格の確定。江戸時代における高尾山の基盤を確立したという意味で、堯秀の功績は大きい。『参考文献』山本博文「寛永時代」（吉川弘文館、「寛永時代」、西沢淳男「高尾山薬王院寺領成立過程」と朱印状交付について」（村上直編「近世高尾山史の研究」名著出版、一九八八）

おことわり

本連載では史料の引用について、読みやすく原文に手を加えています。五月号の史料は「老中」の職名が定まる以前のこと、写真のキャプションは「宿老」と訂正します。また、六月号の参考文献として、小町和義さんの「高尾山の建築について」（『多摩文化第二四号武州高尾山その自然と歴史』一九七四）を追加いたします。



薬王院の寺領を領知する徳川家光朱印状(写し)

寺領は所期の半分であつたかも知れないが、一定の経済基盤を確保するとともに、何より御朱印寺院という格式を得ることが実現した。堯秀の選化が、伝えられる六月二五日とすれば、朱印状の発給を見届けることはでき

たが、将軍の領知による土地か否かでは意味合いが大きく違う。周辺の主だった寺社はすでに天正一四年（一五九二）の段階で家康から領地を安堵されていたが、高尾山が外れた理由としては、全山の焼亡を推測しておいた。寛永一四年には北麓の上長房村の村人による大規模な盗伐事件が発生し、それは薬師堂・飯縄宮の近くにまで及ぶものであった。江戸は都市建設の最中であり木材の需要はいくらでもあっただろう。薬王院としては、天正一四年四月付の竹木伐採を禁ずる大久保長安の書面を寺領の保証として解釈していたようだが、寺領を規定する明確な根拠を改め必要とする状況にもあつたと考えられる。

たが、将軍の領知による土地か否かでは意味合いが大きく違う。周辺の主だった寺社はすでに天正一四年（一五九二）の段階で家康から領地を安堵されていたが、高尾山が外れた理由としては、全山の焼亡を推測しておいた。寛永一四年には北麓の上長房村の村人による大規模な盗伐事件が発生し、それは薬師堂・飯縄宮の近くにまで及ぶものであった。江戸は都市建設の最中であり木材の需要はいくらでもあっただろう。薬王院としては、天正一四年四月付の竹木伐採を禁ずる大久保長安の書面を寺領の保証として解釈していたようだが、寺領を規定する明確な根拠を改め必要とする状況にもあつたと考えられる。

高尾山小物語 39

神変堂と殺生禁断碑

絵・橋本豊治



神変大菩薩
神変大菩薩は、役行者や役小角とも呼ばれております。七世紀末に奈良県の葛城山を始め、全国の霊山で修行を積まれ、名前の「神変」の通り、各地で人知では測り知れない霊験を残されました。

蛸杉から薬王院へ向かう途中、「霊気満山」と書かれた浄心門を潜ると、修験道の開祖、神変大菩薩様が祀られた神変堂が見えてきます。

現在の神変堂は以前の建物の老朽化により、昭和四十四年に建立されました。お堂の扁額は時の総理大臣、故・佐藤栄作氏の揮毫を頂きました。今では、参拝や登山の方々が、健脚祈願や腰痛平癒を願い、祈りを捧げる様子が見られます。

また、神変堂脇には高さ五メートル、幅二メートル、重さ二十三トンの石碑があり、「殺生禁断」と刻まれております。

高尾山では、代々愛山護法が精神が遵守されております。この石碑は建立当時、昭和五十七年頃は、自然破壊と、そこから生ずる公害が社会問題となっていた情勢でありましたため、高尾山を訪れる人々に、自然愛護の心を訴えたいとの願いから建立されました。

神変祭 厳修

六月七日(月)

六月七日、浄心門脇の神変大菩薩様がお祀りされている神変堂において、神変祭が行われました。神変様は修験道の開祖であり、役行者の名前でも知られております。

この日は神変様の御命日と伝わっており、神変様の教えにあります。大衆の救いとなる宗教の実践、庶民の救いとなる、「生活の中の仏教」の実現を願い、佐藤山主御導師のもと、しめやかに法要が行われました。

現在では健脚や腰痛平癒の御利益を求め、御参詣や登山の皆様が熱心にお祈りされており、法要の際にも道行く方々が足を止め、共に祈りを捧げておりました。



神変大菩薩様の御遺徳を偲ぶ

いけばなの心 17

華道教授 佐藤 宗明

今年もマスクをしたままの夏となりました。熱中症にも、充分にお気を付けてください。
今回も水辺の風情を感じて頂く作品をご覧頂きます。通常は水際をすつくりと一株で整える生花ですが、この作品は株を二つに分けて生ける『魚道生』です。株と株の間を魚が通る風情で生けるもので、夏にしか生けません。夏にしか生けない理由には、冬に水面が広く見えると寒々しく見えてしまう事。また、水辺に育つ花材は夏に大きく成長し、冬には枯れてしまうという事があります。当季の花を使つて爽やかな雰囲気を感じさせる、夏に一度は生けたくなる生け方です。今回使用している花材はヒメガマと燕子花です。

ヒメガマは左側の株にある、細長い葉です。軽くねじれているので、葉の幅が変化しているように見え、それが作品に躍動感を与えてくれます。燕子花は一年を通して用

いられる花材ですが、夏には葉も花も力強い生命感を感じさせてくれます。左の株はヒメガマの他に燕子花も使用し、二種の草木を融合させるようにして生け、右の株には燕子花の生命感を感じさせる開いた花を配置しました。夏の暑さに負けない草木の力強さを感じて頂けると幸いです。



花材・ヒメガマ、燕子花

院内散歩 53

薬王院の展示物



水彩画「八甲田山」
棟方志功 作

高尾山 季節散歩

暦の言葉

桐始結花

「きりはじめてはなをむすぶ」

七月二十二日〜七月二十七日頃

文字の通り、桐の花が咲き始めるという意味ですが、実際には五月に花が咲きますので、この時期は桐の実が生る頃です。

桐は高級木材であり、古来より嫁入り道具の一つ、筆筒の素材としても珍重されております。

今月の風物詩

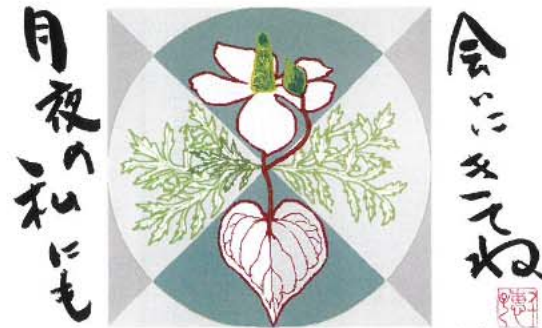
西瓜

夏の味覚であるスイカは、水分が九十パーセントもあり、中東など砂漠地帯では貴重な水分となっており、アフリカ原産であり、日本へ伝わった年代は不確定ですが、戦国時代以降にポルトガル経由、または中国経由で伝わったと考えられております。

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙「愛らしいどくだみ」

せと ちえこ 様



2021.5.28

一歩一歩煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

百二段 何はともあれ健康と第一に

人間、いずれはみんな年をとって死ぬというのは、逃れられない事実です。しかし、精一杯楽しんで過ごしたいのも、人情です。そのためにも、不規則な生活を改めて健康に気をつけるようにしてみましょう。

◎健康登山の皆様へ
高尾山報投稿の御案内
御護摩受付所では、皆さまの「健康」に関する思いや思い出・習慣、又は「健康登山」を通じて経験した出来事などの、心温まるお話を聞かせて頂いております。
そこで、皆様のお話を多くの方々にお届けできますように、御護摩受付所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話や作品を、『高尾山報』に掲載させて頂いております。
その他、おもしろい体験・変わった出来事・ポエム・俳句等どんなお話でも結構です。是非お聞かせください。御協力宜しくお願い致します。
※ 投稿頂きました作品は全て掲載できるよう努めますが、当山の判断で掲載しない場合もあります。また、多くの方に投稿頂きました場合、掲載までお時間を頂く場合がございます。すこすことを御了承下さい。

「高尾山健康登山の証」のお勧め
年間約二百八十万の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、いまでは約五万人の方々が会員となられております。
期限はございませんので、御自分のペースで楽しみください。
また、一冊に付き二十一回スタンプを押すペーシがあり、終了したことを満行と言います。満行されますとお祝い膳として、精進料理の御接待や健康登山者限定の記念品などと交換もできます。



帳面……七百円
スタンプ……百円

おはなし散歩道

町田市 大澤桃代

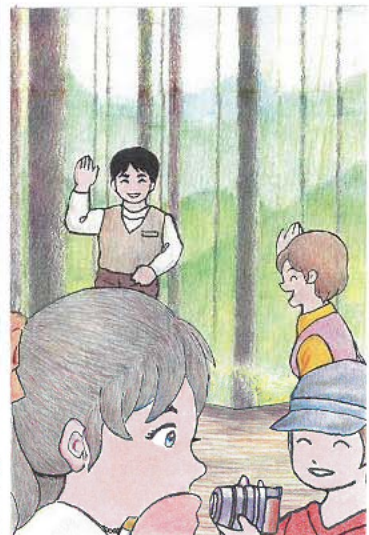
夏の匂い

ケーブルカーの駅や一号路の混雑をよそに、いづみは六号路を登る。海の日、高尾に登るのは三度目、二年ぶりだった。岩屋や滝を巡り頂上へ向かう。登山道は人影がまばらで、せせらぎや葉擦れの音が心地よい。夏草の道でいづみは考える。
(来る、来ない。ううん、来るに決まっている……)

高一の時、いづみと亜紀、佳奈、祐二の四人で高尾に登るようになった。たまたま帰りの電車で一緒に帰って、窓から夏の高尾山を見たのだ。四人は小中高と同じ学校だった。いづみは、小学校の遠足を思い出して言った。「高尾、また登りたいな」「何回も登ってるよ」と、言ったのは亜紀だ。茶髪にネイル、制服をお洒落に着こなす女だった。

たから、三人は驚いた。「だって、楽しいじゃん」と、亜紀は屈託なく笑った。気が向くと一人で登るといふ。その場で女子三人が登りたいと言いつつ、祐二が「一緒にいかな」と参加することになった。登山道はいくつもありケーブルもリフトもある。四人で話すうち『海の日十二時山頂集合、お昼を食べて下山』と決まった。その年、四人が集まり、薬王院にお参りしりしり橋を渡って下った。そして毎年集まることになった。いづみは、去年不参加だった。祖母の入院のため、佳奈に言付をした。「祐二が残念がつてたよ」集まりの後、佳奈から思いがけないメールがきて、いづみはドキッとした。四人はクラスも部活も違う。進路もそれぞれだ。いづみ

は化学専攻、佳奈は文学部、亜紀は美大だ。いづみは祐二の進学先を知らない。佳奈なら知っていると思つたが、聞けなかった。(素直じゃないのかも)といづみは思つた。
いづみと祐二は小学校五・六年で同じクラスだったが、中高は三年間別々だ。高二からいづみは理系コース、祐二は文系だった。数学の得意な祐二が文系と知り、驚いた。けど社会科学も好きだったといづみは思つた。学校での祐二ははたいて一人であったが、好かれてる男子だ。告白されたこともある。いづみが平然としていられたのは、交際を断つたことを知っていたからかもしれない。
高校のときに彼女がいなくても、今はわからない。亜紀は中学でも高校でも彼氏がいたし、佳奈も最近彼氏ができた。祐二だって……考えてもしょうがないのに、いづみは気がつくと考えている。目の前が開けてきて、



人々の騒めきが聞こえた。頂上はすぐそこだ。少し早く着いてしまった。(何て言えはいいんだろう。何て聞けば……) 富士山を眺めながらも心は祐二でいっぱいだった。十一時を過ぎた。不安になったころ、ポンと肩をたたかれた。カメラを抱えた亜紀だった。茶髪を帽子に入れていたので、別人に見えたのだ。いづみが聞く。
「佳奈と祐二は？」
「佳奈はともかく祐二は来るよ。少し遅れるけど」「どうして？」
「そういう事になつてる」
亜紀が指さす登山道

を見やると、祐二の姿が見えた。亜紀が手を振るので、いづみも手を振った。それから、亜紀は突然「じゃあね」と、下山道へ歩き出した。「どうしたの？」と引きとめようとして驚く。看板の陰から佳奈が出て来たからだ。「本当に世話が焼ける二人だね。何年越しの恋？」亜紀があきばれ言い、「まわりにはバレバレ」佳奈が笑った。
「じゃあ、またね！」と二人は行つてしまった。祐二が駆けて来る。ふつと風が吹いて、夏の匂いがした。(完)
(挿し絵・小出 茂)



侍衣装を着た慶賛会の皆様

「物で栄えて、心で滅ぶ」という言葉は、昨今の世相を端的に表現しているようです。

経済発展の代償として、公害、交通禍、その他様々な弊害が生じ、経済的には豊かになりながらも、心は貧しく刺々しくなり、社会全体が人々の「迷いの心」で覆われております。かかる時代こそ、心に「うるおい」を与える存在として信仰心が必要であり、信仰の温かい心を通じて愛情、尊敬、感謝などの心を養い、人間味豊かな社会を建立したいものと念願しております。

高尾山は現在「ミシラン三つ星」を頂き、『心のふるさと折りのお山、世界に冠たる高尾の自然』と称され、多くの参拝者が来られています。

こうした恵まれた自然環境の中にある薬王院には、古来より僧侶だけではなく、広く一般からの篤志家に参加して行われる、多くの年中行事が伝承されております。高尾山慶賛会は、こうした各種の行事を奉賛し、以て御本尊を尊信し、その御加護を仰ぎ明るく暖かく、そして豊かな生活を送ることを目的とするものであります。

ぜひとも茲に広く高尾山慶賛会員を募り、ご加入御協賛を頂き、御本尊様の威神力に浴されますよう念願するものであります。

高尾山慶賛会入会のおすすめ

お申込・問合せ
年会費 一口五千元
申込方法 お手数ですが「高尾山慶賛会 係までお問い合わせ下さい。
申込用紙を発送致します。

〒一九三・八六八六
八王子市高尾町二二七七
高尾山薬王院「慶賛会事務局」
TEL ○四二・六六・二二五
FAX ○四二・六六・二九九



有喜苑の仏舎利奉安塔周囲には、「百観音御砂踏霊場」が造立されております。こちらに収められている各霊場の御砂は、先代の大山御貫首が平成十二年二月より四月の間に、坂東三十三観音・秩父三十四観音・西国三十三観音（合わせて百観音となる）と各番外地を巡拝され、各霊場より頂いた御砂です。

御信徒の皆様が慈悲深い観音様と、さらなる尊い御縁を結んで頂くため発願され、平成十三年の仏舎利塔大改修の落慶とともに、各霊場の名が刻まれた多くの観音像が、仏舎利塔を御守りするかのようにな建立されました。

本来であれば、自らの足で各霊場を巡ることが望ましいのですが、実際に巡礼することは大変難しいものですので、高尾山へ訪れた際には是非とも観音様に手を合わせ、一ヶ寺ずつ心を込めてお祈りしましょう。

高尾山 修行場めぐり

御護摩修行のおすすめ

皆様の諸願成就を祈願する



高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。

御護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様が御木尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。

御護摩修行を行った方には、御護摩札が授けられます。

大切にお持ち帰り頂き、お供物と共に自宅等に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯繩大権現」とお唱え下さい。

郵送御護摩 申し込み受付について

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。遠方にお住まいの方や、感染症流行によりお参りできない御信徒皆さまのために、御護摩札の郵送も受け付けております。

手紙、FAX等での申し込みをお願いしておりますが、高尾山薬王院の公式ホームページ内にあります「御護摩祈禱の御案内」からも、直接お申し込みすることが出来ますので、こちらも併せて御案内申し上げます。

ご不明な点等ございましたらお問い合わせ願います。

お問い合わせ先
TEL ○四二・六六・二二五
FAX ○四二・六六・二九九
「郵送御護摩係」まで

高尾山のお護摩札とお供物

<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 3,000円以上</p>	<p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 5,000円以上</p>	<p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 10,000円以上</p>	<p>特別大護摩 30,000円以上</p>	<p>開帳大護摩 50,000円以上</p>	<p>特別開帳大護摩 100,000円以上</p>
<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>	<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>	<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>	<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>	<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>	<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>
<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>	<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>	<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>	<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>	<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>	<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>お護摩 (車内用札)</p> <p>特別大護摩</p> <p>開帳大護摩</p> <p>特別開帳大護摩</p>

（一）内の略称を括弧で示します。

お護摩の願事
お問い合わせは、一律「願事」として受け賜ります。

併願（二願事）は、一万円より受け賜ります。

但し、五千円で家内安全と消光警報のみ併願とさせていただきます。

お護摩札には、年令・生年・日付等は入りません。

高尾山子供やまぶし修行体験会

高尾山に古来より伝わる、山伏の修行を体験してみませんか？山に広がる大自然の中で、山伏と共に滝に打たれ、山を登り困難や試練に耐える強い心を鍛えましょう。

夏休みの思い出作りとしても、ご参加下さい。

記

日程 令和三年八月一日(日)
場所 高尾山麓不動産 午前八時集合
参加費 五千円
募集人数 四十名(先着順)
対象者 小学校四・五・六年生
申込期間 七月十五日(木)～七月二十一日(水)必着
行 程 出発↓滝行(琵琶滝)↓ケーブルカー乗車
↓昼食・腕輪念珠作り・御護摩修行↓
ケーブルカー乗車↓不動院到着・解散

※今年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、参加人数、対象学年、行程等を変更して開催致しますので、ご確認の上お申し込み下さい。

※七月十四日(水)以前のお申込みは無効とさせていただきます。

※受書の発送をもって申し込み完了と致します。

※定員に達しましたら募集を終了致します。(当山ホームページにて記載)

※参加希望の方は、左記の連絡先までハガキにて、郵便番号・住所・氏名とふりがな・学年・性別・生年月日・電話番号・緊急連絡先・アレルギーを明記の上お申し込み下さい。

〒一九三二八六八六 八王子市高尾町二二七七番地

秀峰会 子供やまぶし修行体験会宛

○詳細は当山ホームページをご覧ください。



新型コロナウイルスに対する安全対策

高尾山薬王院では、新型コロナウイルスの感染予防を図る為、受付や御札授与所における飛沫感染防止ビニールガードの設置、境内各所への消毒液設置、また職員のマスク着用などの対策を実施しております。

御来山の皆様におかれましても、手洗いやマスク着用等の予防対策に十分留意されますようお願いしております。

皆様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

高尾山報助成金志納者 御芳名(順不同・敬称略)	川崎市 大島 一将	八王子市 (株)ムラウチ ネットワーク
新座市 彰山 粧麗	小平市 関 章雄	
富里市 森 照森	茅ヶ崎市 椎野 道雄	
深谷市 田中 佐智野	足立区 中山 恵子	
八王子市 田中 スエ	品川区 芦澤 尹通	
練馬区 神山 静子	練馬区 深谷 薫	
足立区 小西 慶行	相模原市 中嶋 一成	
陸前高田市 金 剛 寺	甲府市 丸山 福栄	
品川区 伊藤 誠規	深谷市 三宅 ふじ	
本庄市 北村 久子	日野市 叶内 匡子	
行田市 松本 恵美子	いわき市 横山 隆俊	
練馬区 稲毛 英子	八王子市 松山 ほつみ	
さいたま市 菊池 知恵子	八王子市 嶋田 重夫	
山口市 竹村 啓	比企郡 石角 執	
八王子市 成川 美保	八王子市 石角 重夫	
石田 博司	高尾山健康登山者一同	

人々の願いを照らす 灯りの巡礼

真夏の高尾山では、八月二十一日及び二十二日の両日に「灯りの巡礼」と称し、夕暮れ時から参道の春日燈籠に灯りが点されます。また有喜苑では、全国の医療従事者に感謝の念を届けるため、仏舎利塔を青く照らし出す「ブルーライトアップ」を行い、御信徒の皆様から御奉納頂きました紙燈籠を献灯致します。

二十二日には夕闇の有喜苑において、柴燈大護摩供が厳修され、医療従事者の皆様の身上安全、身体健全並びに罹患者平癒を、一心に御祈念させていただきます。



青く照らされる仏舎利塔の前で柴燈大護摩供が厳修される

紙燈籠奉納のご案内

高尾山有喜苑で執り行われる「灯りの巡礼」にて、本年も八月二十一日、二十二日の両日に紙燈籠を献灯させていただきます。

全国の医療従事者の皆様に感謝の念を届けると共に、御信徒の皆様方の願いを紙燈籠に込めて夕闇を照らし出します。

紙燈籠には奉納者名と願い事を記して、諸願成就を御祈念致します。奉納を御希望の方は、手紙又はFAXにてお申込み下さい。ご不明な点等ございましたらお問い合わせ願います。

特別燈籠 一万円(限定一〇八挺)
燈籠 二千円

※特別燈籠をお申込み方には柴燈大護摩供の際、お名前の読み上げを致します。

お申込み方法

お手紙又はFAXに、郵便番号、住所、氏名、電話番号及び願い事を明記の上、お申し込み下さい。

〒一九三二八六八六
八王子市高尾町二二七七
高尾山薬王院 信徒課
灯りの巡礼係

Fax 〇四二・六六四・二九九

締切り 八月十八日(水)



紙燈籠で描いた感謝の文字



登山だより

八月行事日程

一日〜七日

聖天秘供(聖天堂)

二日、十三日、二十五日

弁天様御縁日

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

二十三日

御詠歌勉強会

二十八日

奥之院開扉供養
(十時奥之院)

月例写経会

(十三時半山麓不動院)

二十九日

高尾山とんとんむかし
「語り部の会」
(十二時半山麓不動院)

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供
(九時大本堂)

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯縄大権
現様の日々の御加護に感
謝し、沢山の御供物を捧げ
て御本尊様威光倍増の為、
御供養申し上げる法要で
す。

皆様の御志納を受け付
けておりますので、ご希望
の方は大本堂までお申し
出下さい。

尚、法要終了後に百味の
お札を授与致します。

毎月二十一日午前九時勤修
御志納金 一口三千円以上

毎日の お護摩奉修時間

(4月15日〜10月31日まで)

午前5時30分
" 9時30分
" 11時00分

午後0時30分
" 2時00分
" 3時30分

ご講中・団体等御相談
下さい。

高尾山の昆虫

チャイロヒゲビロウドカミキリ



ビロウドカミキリは暗褐色の体に黄褐色の微毛を備え、光の具合により織物のビロードのような色合いや手触りを感じさせ、高尾山では普通に見られます。

またビロウドよりも小型、且つ細身であり長い触角を持ち、明るくやや上品な黄褐色を帯びる、ニセビロウドカミキリもよく見かけます。

そして少ないながら、今回取り上げるチャイロヒゲビロウドカミキリが生息しています。

本種は以前、三浦半島等の南関東で確実に見られたカミキリでしたが、その後急速に姿を消していき、なかなか出会えない種として名を連ねる存在になってしまいました。

ビロウドカミキリとよく似ていますが、より大型で触角の第一節が膨れ上がることで見分けることができ、バランスもよく気品を感じさせる雰囲気を持ちます。夜行性の種でニワトコ等の生木に集まる事が知られていましたが、高尾では灯火に飛来した個体を数回確認しています。

高尾における詳しい生態は不明ながら、近年ユズリハに集まる事が分かり各地で再発見が報告されていますので、高尾でも今後ビロウドカミキリの王様のような、その姿をもっと見せてくれる可能性を感じます。

(標本・小畑 裕 撮影・文松島 孝)

祝日変更の御案内

◆祝日変更の御案内
本年は東京オリンピック・パラリンピック開催にあたり、昨年の十一月に左記の三日間の祝日が変更され、お手持ちのカレンダーなどと異なっている場合がありますので、祝日に御来山を検討される際には、お気を付けください。

海の日

変更前 七月十九日
変更後 七月二十二日

山の日

変更前 八月十二日
変更後 八月八日

スポーツの日

変更前 十月十一日
変更後 七月二十三日

高尾山薬王院ホームページ
<http://www.takaosan.or.jp>

発行所 東京都八王子市高尾町2177
大本山 高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 菅谷 秀文
編集人 菅井 倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円